

事業名称	黒耀石のふるさと創生事業		
実行委員会	「黒耀石のふるさと創生事業」実行委員会		
中核館	黒耀石展示・体験館		
	住所	〒386-0601 長野県小県郡長和町大門 3670-3	
	TEL	0268-41-8050	FAX 0268-41-8052
	ホームページ	http://www.hoshikuso.jp/	
構成団体	長和町商工会、長和町振興公社、長和町観光協会、信州うえだ農業協同組合よだくぼ南部支所、高原祭り実行委員会、信濃霧山ダツタンそば生産者組合、長門牧場、黒耀石体験ミュージアム友の会、歴史遺産ボランティア、キュルトウール・ド・ながわ、明治大学社会連携部、明治大学黒耀石研究センター		
事業開始時点の課題分析	<p>黒耀石展示・体験館（通称：黒耀石体験ミュージアム）は、平成 17 年度より地域の歴史遺産に関する普及公開とそれらの保存・活用を担う人材育成プログラムとして、講演会や旧石器時代と縄文時代に繋がる生活技術の体験学習を主たるコンテンツとした「黒耀石のふるさと祭り」を開催してきた。町の方針としては町内の歴史遺産を中心とした地域活性化を目指しているが、そのためには当館や教育委員会だけでなく、農商工観光など様々な業界と連携することが不可欠と考える。「黒耀石のふるさと祭り」の開催に当たっては広く地域の住民が参加できるスタイルを目指してきたが、回を重ねる毎に内容が充実する一方で、農商工観光側からすると歴史愛好家、教育振興のための催し物というイメージが強く、連携するには敷居が高いという意見も多く聞こえていた。</p> <p>そこで平成 23 年度より新たな体制づくりを検討し、町内を中心とした様々な農商工観光団体と組織する実行委員会によって本事業の運営を行ってきた。</p> <p>そして平成 25 年度からは「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の採択を受けて、博物館活動と地域振興事業との連携をアピールしてきた。その結果、当館を巡る行政および教育組織と農商工観光という異業種間の連携が進み、協力者の誘致や地場産業との結びつきが充実することによって、平成 26 年度には参加者が顕著に増加し、その経験から事業の発展に向けて取り組むべき方向性と課題が見えてきた。</p> <p>増加を見た平成 26 年度の参加者からは本事業の魅力を知ったという声も多く、保守的な価値観が根強い地方において地域を活性化する事業として定着させるためには、継続的な取組みを重ねることによって認知度と愛着を高め、前年度までの成果を十分に定着させていくことが必要である。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、財政状況が困窮する小規模自治体において、非営利の社会的組織である博物館が存続していくため、存在基盤となる地域住民との関係を見直すことにある。</p> <p>具体的には、地域住民が博物館活動の主体者であるという意識形成を促進拡大するために、博物館活動を農商工観光に係る事業の中に有機的に位置づけていくことで、地域住民の自主性や自発性に基づく博物館との関係づくりを促進し、地域振興において目標を共有できる団体間の人的交流及び組織的な連携を強化することによって地域全体の活性化を共に担うことである。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>本事業は、「黒耀石のふるさと祭り」事業、地域歴史遺産継承人材育成事業から構成される。</p> <p>「黒耀石のふるさと祭り」事業は、国史跡「星糞峠黒耀石原産地遺跡」を背景とし、考古学的な多くのワークショップを中心とした異業種・多世代交流のイベントである。事業内容のコンセプトは、今日に繋がる先史時代の生活技術を楽しみながら体験してもらい、その歴史を継承する当地域の魅力が多角的に再認識してもらうため、農商工観光に携わる人々の運営への参画により地域の自然環境を活かした地元特産品の販売等も行う。このことにより多様な人々を対象として地域ならではの歴史遺産を介した新たな地域振興の手法を共に考え、また地域振興を担う人々のネットワーク形成及びその強化を図ることが本事業の特色である。</p> <p>地域の歴史遺産継承人材育成事業では上記事業を継承していく次世代の担い手を育成するために、当町が有する黒耀石文化に関する基礎的な理解を深めることを目的としたオブシディアン学習を実施する。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>① 黒耀石のふるさと祭り」開催による成果及び効果</p> <p>本事業で実施した「第14回黒耀石のふるさと祭り」には約1,100名の来場者を数えた。ワークショップの一環として開催した星糞峠黒耀石原産地遺跡現地説明会にも400名を超える参加者があり、本地域の黒耀石文化の理解は拡大している。また昨年度の考古学系団体の参加に加え、本年度は新たに茅野市の観光事業者の特産品販売ブースへの参加もあり、歴史遺産を活かした地域活性化事業を推進していく母体も拡大された。</p> <p>② 域の歴史遺産継承人材育成各種事業による成果及び効果</p> <p>本事業で実施した学習会や講習会、また「黒耀石のふるさと祭り」への参画を通じて、地域の歴史遺産に対する理解や、地域の歴史遺産を活用した地域活性化のあり方についての理解が深められた。こうした成果については、別事業として推進している「長和青少年黒耀石大使」による国際交流事業へと結実している。この国際交流事業は過去にオブシディアン学習を経験した町出身の中学生や高校生が交流先のイギリス・セットフォード町へ</p>

と赴いて、自らが現地の言葉で地域の黒耀石文化を宣伝紹介する事業である。また海外だけでなく関東地方や長野県立歴史館におけるイベントにも参加し、積極的に広報を行っている。このようにオブシディアン学習を受けた地域の子ども達が、地域の歴史や文化を積極的に外に向けて発信しており、着実に地域文化を担う人材が育成されている。

【事業実績】

1. 「黒耀石のふるさと祭り」

(1) 考古学ワークショップ

① 星糞峠黒耀石原産地遺跡現地説明会

平成 28 年度から整備を目的として発掘調査が行われている星糞峠黒耀石原産地遺跡の現地説明会を開催しました。地下 5m を超える深さから発見された縄文時代後期(約 3,500 年前)の木製構造物も公開され、400 名を越える見学者に参加いただきました。見学者からは参加人数の多さや発掘現場の大きさに驚き、3,500 年前の縄文人が手にしていた黒耀石を手にとって見られることにロマンを感じるといった感想をいただきました。



遺跡現地説明会

(見学者によるブログ:<http://shop.asama-de.com/b/kurikuriya/blog/index.php?itemid=947&catid=85>)

② 各種体験プログラム

ミュージアム横の広場や駐車場では、狩りの体験(弓矢、吹き矢)、縄文ペイント、土笛づくり、発掘体験、発掘技能オリンピック、火起こし、黒耀水の野点、旧石器バーベキューのほか、縄文 B 級グルメと題した日本各地の縄文スープが振舞われました。弓矢の体験や発掘技能オリンピック、縄文ペイントではその腕前を競うコンテストも開催し、上位入賞者には縄文土器のトロフィーが贈られました。



弓矢体験



縄文服づくり



土笛づくり



縄文クッキー



発掘体験コーナー

③ 文の森コンサート

ミュージアム敷地中央には特設ステージが設けられ、長和町黒耀石のふるさと親善大使の葦木啓夏さんや、アイヌ舞踊や音楽を通してアイヌ文化を伝える団体、発掘に縁の深いスコップを使ったスコップ三味線を披露する地元の農協婦人会など総勢 5 組が出演し、音楽による文化交流や楽しいパフォーマンスで会場を盛り上げていただきました。



葦木啓夏さんと長門小学校 6 年生
によるコンサート



地元農協婦人会によるスコップ三味線

2. 地域歴史遺産継承人材育成事業

(オブシディアン学習)

本事業では地元の小・中学生を対象として、博物館学芸員や講師を招いた学習会を実施し、地域の歴史遺産に対する理解を深めました。次世代の人材育成を目的とした本事業による成果はすぐに可視化できるものではありませんが、平成 20 年度から継続して取り組んできた結果、近年では「長和青少年黒耀石大使」事業という形で成果の一端が現れつつあると考えています。「長和青少年黒耀石大使」事業は平成 28 年度より実施している、地元の中高生が自ら地域の歴史遺産を日本全国さらには海外に向けて発信していく事業です。本年度は第 2 期黒耀石大使が、当町と交流している英国セットフォード



イギリスで黒耀石の石器づくりを教える
長和青少年黒耀石大使

町に赴き、当町の星養峠黒耀石原産地遺跡と姉妹遺跡の協定を締結しているグライムズグレイブズ遺跡で開催されたフリントフェスティバルにおいて黒耀石の石器づくりワークショップを実施し、地域の歴史遺産を紹介する取り組みを行いました。この事業は本事業とは別に進めている事業ではありますが、大使となった高校生 8 人はいずれも過去にオブシディアン学習を受けた子供たちであるため、これまでのオブシディアン学習による成果と考えています。